

慢性副鼻腔炎

慢性副鼻腔炎とは、副鼻腔に慢性的な炎症が起きている状態のことです。かぜなどで鼻腔にウイルスや細菌が感染し、さらに鼻腔と副鼻腔をつなぐ自然口を通じて副鼻腔にも感染すると、「急性副鼻腔炎」が起こります。急性副鼻腔炎は通常1～2週間で直りますが、治りきらなかったり再発を繰り返すうちに、炎症が悪化して粘膜が腫れたり、膿がたまる状態が続くことがあります。このような状態が3ヶ月以上続くと、慢性副鼻腔炎を診断されます。慢性副鼻腔炎は、耳鼻咽喉科では花粉症などによるアレルギー性鼻炎に次いで多く見られる病気です。

症状

鼻詰まりや、ねばねばした鼻水のほか、頭痛や頭重、頬部痛、嗅覚障害などの症状が起こります。また副鼻腔の粘膜が炎症を起こして腫れる「鼻ポリープ」を併発することもあります。

検査

- 内視鏡検査……………ファイバースコープで鼻腔内を観察。
- 画像検査(X線、CT)……………問診や視診で副鼻腔炎が疑われる場合に行います。
- 原因菌の検査……………細菌培養をして原因菌を調べます。
- 血液検査……………アレルギーの有無など。

治療

● 薬物療法

「マクロライド系抗菌薬」が有効です。慢性副鼻腔炎の場合は、通常、肺炎などに使われる量の約半量を長期間内服します。アレルギー性鼻炎を伴う場合には、抗アレルギー薬が使われます。

● 手術療法(ESS : Endoscopic sinus surgery 内視鏡下副鼻腔手術)

高度あるいは中等度で鼻ポリープがある副鼻腔炎の場合には、まず内視鏡を使った手術が行われ、その後保存療法を継続します。

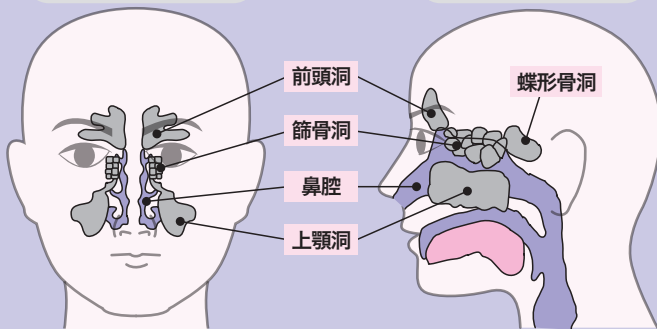
手術は全身麻酔をし、直径約4mmの内視鏡を用いて行います。鼻の中に映し出されたモニターを見ながらポリープを切除するとともに、その他の腫れたり厚くなっている粘膜を切除したり、膿を吸引したりします。なお、鼻の中央にあり鼻腔を左右に仕切っている鼻中隔の曲がり強い場合には、鼻詰まりの原因になることもあるので、曲がりを矯正する手術が同時に行われることもあります。

当院では全て内視鏡を用いて手術を行っており、所要時間は約2時間程度で、5～7日間程度の入院が必要になります。手術後はマクロライド系抗菌薬の服用を症状の程度により1～3ヶ月続けます。

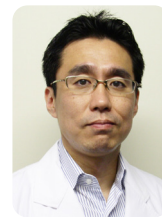
副鼻腔の構造

正面から見た図

横から見た図



副鼻腔には、前頭洞、篩骨洞、上顎洞、蝶形骨洞がある。



耳鼻咽喉科
非常勤医師(水曜日の午前・午後)
谷口 雄一郎

社団法人日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医
東京慈恵会医科大学1996年卒業、医学博士

ご予約方法

電話予約 **04-7123-5901**

月曜日～土曜日 9:00～16:00 ただし、祝日および病院指定休診日を除く


kikkoman

キッコマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>